

尺度使用マニュアル

<尺度名>

マキャベリアニズム尺度

<測定概念>

マキャベリアニズムは、対人関係における他者操作的な側面の個人差を測定するために、Christie & Geis (1970)が開発したパーソナリティである。その名前は、他者操作的な対人戦略の重要性を説いた思想家マキャベリに由来し、彼の著作から抜き出されたセンテンスへの同意を問う形で測定される。マキャベリアニズム尺度は第 5 版まで作成されたが、その中でも第 4 版 (Mach-IV) が、基準関連妥当性が高いとされ、最も一般的に使われている。Mach-IV を邦訳し、信頼性と妥当性を確認したものが本尺度である。

<適用範囲>

大学生・短期大学生・専門学校生を対象として信頼性・妥当性の検討を行った。18 歳以上の一般的集団に適用されることを想定して作成した。18 歳未満（高校生以下）への適用については未検討である。

<尺度構成手続き>

独立した 2 者間を介したバックトランスレーションにより、日本語訳を行った。項目の追加・削除などは一切行っていない。

大学生・短期大学生・専門学校生を対象として信頼性・妥当性を検討するための調査を行った。1077 名（男性 581 名、女性 496 名、平均年齢 19.4 歳、標準偏差 1.2）から有効な回答を得た。

<信頼性>

クロンバックの α 係数は .73 と十分な値を示した。上述の 1077 名のうち 203 名に対し、マキャベリアニズム尺度の測定を 2 度実施し、再検査信頼性の検討を行った。この 203 名のうち、37 名は 8 週間の間において、166 名は 9 週間の間において、尺度に回答した。2 回の調査時点におけるマキャベリアニズム尺度得点間の相関係数を算出した。その結果、8 週間の間をおいた場合は .82 ($n = 37, p < .001$)、9 週間の間をおいた場合は .81 ($n = 166, p < .001$) と高い値を示した。

<妥当性>

調査対象者 1077 名のうち、再検査信頼性を検討した 203 名とは別の 566 名がサイコパシー尺度、ビッグファイブ尺度に同時に回答した。この 566 名のうち、329 名は向社会的行動尺度にも同時に回答した。各尺度得点とマキャベリアニズム尺度得点の間の相関係数を求めた。その

結果、サイコパシー尺度 ($r(566) = .49, p < .001$)、向社会的行動尺度 ($r(329) = -.23, p < .001$)、ビッグファイブの協調性 ($r(566) = -.48, p < .001$) との間に予測通りの相関がみられた。

<採点方法>

下位尺度はない。逆転項目は項目番号 3,4,6,7,9,10,11,14,16,17 である。逆転項目の得点を逆転した後に合計点を求める。

<尺度の使用について>

項目の改変や増減は想定していない。

<出典文献>

Christie, R., & Geis, F. L. (1970). *Studies in Machiavellianism*. New York: Academic Press.

中村敏健・平石界・小田亮・齋藤慈子・坂口菊恵・五百部裕・清成透子・武田美亜・長谷川寿一 (2012). マキャベリアニズム尺度日本語版の作成とその信頼性・妥当性の検討 パーソナリティ研究, **20**, 233-235.

上記のパーソナリティ研究誌の論文の発表後に論文掲載の分析結果に一部誤りがあったことが判明し、下記の形で紙面に訂正を掲載していただきました。こちらも併せてご確認ください。
※このマニュアルに記載の分析結果は訂正後のものです。

訂正 パーソナリティ研究, **23**, 116-117.

<連絡先>

中村敏健 (東京大学大学院総合文化研究科)

Email: machiavellian.scale.4th@gmail.com

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

出典として Christie & Geis (1970)と中村・平石・小田・齋藤・坂口・五百部・清成・武田・長谷川(2012)の両方を明記の上、ご自由にお使いください。出典文献・訂正、およびこのマニュアルを読んだうえで不明な点がある場合のみ、連絡先に記載のメールアドレスまでお問合せください。